

学生優秀発表賞について

— その創設の経緯と選考方法 —

和合 治久*

学生の学会発表に対して、その教育効果と研究意欲をより向上させることを目的に優秀発表賞を最初に設けたのは、平成25年8月に大阪大学で開催された第8回日本臨床検査学教育学会学術大会でした。

この賞は当協議会理事である岩谷良則先生(大阪大学大学院)のご提案により理事会で慎重に審議し決定されたものです。初年度の選考方法は、公正な審査を行うために、セッションごとで教員約10名の審査員が約15名の学生発表を聴き、「全体の構成、発表の分かり易さ、スライドの見易さ、質疑応答のうまさ、内容の面白さ」の各項目を評価しました。そして、審査員による各審査項目の配点を5点満点として、その配分(学生数)を1点が1名、2点が3名、3点が7(8)名、4点が3名、5点が1名となるように採点したうえで、全項目の合計点を最終評価点とし、各セッションの発表者の中で最高得点者を優秀発表賞として表彰しました(表彰者：計8名)。

一方、この学生の優秀発表賞の目的を今年度も引き続き達成していきたいとの願いから、平成26年8月に東京都大田区産業プラザで山藤賢先生(昭和医療技術専門学校)を大会長として開催された第9回日本臨床検査学教育学会学術大会でも設けました。審査および選考方法は前年度の反省を踏まえ、(1)大学院、大学、3年制教育施設(短期大学、専門学校)の3つの分野で表彰すること、(2)各養成校から推薦された審査員は各セッシ

ョン5人程度として、審査する演題数は8~10とすること、(3)評価については、各演題に対して絶対評価にすること、(4)評価項目は「構成(論理的であったか)、語句(分かり易かったか)、声の大きさ・明瞭さ・スピード、質疑応答のやり方、スライドの完成度・美しさ、全体の印象(内容の面白さを含む)」の6つの項目で、「1(劣る)、2(やや劣る)、3(普通)、4(優れている)、5(大変優れている)」の評価点をつけて、その得点の合計が最高評価であった1名に授与する(ただし、同得点が複数いる場合には1名とは限らない)というやり方で行われました。この方法を取り入れることにより、学生の研究活動の経験年数等が配慮され、大学院、大学、3年制教育施設などの学生に対して公平に表彰することができました。ただし、当日の表彰者は6名でしたが、その表彰対象者の中に3年制教育施設の学生がいなかったため、既述のごとく「3つの分野で表彰すること」という基本原則を遵守するため、後日、山藤賢大会長とも協議のうえ、審査された3年制教育施設の学生の中で最も高得点を獲得した学生2名に対して追加授与しました。その結果、今年度の受賞者は計8名となりました。今回の審査方法の改革や基準設定により、審査員の時間的な拘束の負担が軽減できたことなど、大きな改善が図られたと考えています。

今日の臨床検査技師には、心豊かな医療人として貢献することのみならず、国際的感覚を身につ

*埼玉医科大学保健医療学部 h_wago25@saitama-med.ac.jp

け研究的志向(リサーチマインド)を備えて高度な医療を担うことも強く求められています。この観点で、今後も優秀な研究発表を行った学生を表彰し研究意欲をいっそう高めていくことは、医療分野の発展において大いに意義のあることと判断されます。

学会大会終了後、奥宮編集委員長から、これまで学生優秀発表賞の受賞者名や所属施設、その受賞内容等に関して全く記録として残されてないとの指摘があったことから、奥宮編集委員長とも相談のうえ本協議会の機関誌である「臨床検査学教

育」に受賞の感想や受賞内容の概要(二重投稿とならないように指導教員の指導の下で執筆)、将来への展望等を受賞者により執筆して頂き、機関誌に書面として残すことといたしました。

今回は、平成25年度(第8回)と26年度(第9回)の受賞者を掲載することとなりましたが、何人かの受賞者に関しては既に卒業している等の諸事情により、学会抄録内容を記録として掲載させて頂きました。今後は、毎年の受賞者を翌年の第1号(3月1日発行)に掲載する予定です。

学生優秀発表賞 受賞者一覧

平成 25 年度 (第 8 回学術大会)

演題 番号	受賞者 (所属 ; 受賞時) 演題タイトル
114	本山 めぐみ (名古屋大学医学部保健学科) HPLC-ポストカラム BCG 誘導体化法を用いた Alb 測定の検討
126	井之上 侑加 (大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 生体情報科学講座) 自己免疫性甲状腺疾患における血漿中の miR-125a の発現低下
146	古本 玲奈 (倉敷芸術科学大学大学院産業科学技術研究科分子細胞病理学系) ES 細胞と iPS 細胞が形成する腫瘍の細胞病理学的検討
151	高尾 美有紀 (大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻) 重炭酸塩による腸管出血性大腸菌 (EHEC) の病原性発現調節
163	勝原 晶子 (大阪大学大学院医学系研究科機能診断科学) HLA-DPB1*05:01 拘束性 WT1 特異的 TCR を導入された CD4 ⁺ T 細胞はヘルパー活性と細胞傷害活性を有する
167	大橋 実可子 (大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻) 樹状細胞の成熟を抑制する病原性大腸菌の III 型分泌病原因子の解析
184	西畑 哲弥 (京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻) 樹状細胞による免疫不全ウイルスの感染拡大機序の検討
196	猿丸 深香 (大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻) 自己免疫性甲状腺疾患と SIRT1 遺伝子多型との関連

平成 26 年度 (第 9 回学術大会)

演題 番号	受賞者 (所属 ; 受賞時) 演題タイトル
102	吉田 茉由 (東京医科歯科大学医学部保健衛生学科検査技術学専攻) ヒト滑膜間葉系幹細胞の純化及び性質比較
106	迫田 むつみ (京都保健衛生専門学校第一臨床検査学科) 超音波による前腕部断面図の作成 ～神経走行を中心に～
108	久保田 ともよ (昭和医療技術専門学校) 遺伝子分析科学認定士試験への挑戦 - 8 年連続挑戦の歴史と意義 -
113	石毛 里奈 (東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科) 膠原病患者における肺動脈平滑筋細胞の増殖を促進する自己抗体の検出
123	國方 千菜美 (香川県立保健医療大学大学院保健医療学研究科(臨床検査学分野病因解析検査学領域)) 人畜魚共通病原細菌 <i>Edwardsiella tarda</i> のヒトに対する病原機構の解析
131	吉本 明 (東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科先端分析検査学分野) 超速心を用いた HDL 分離の問題点
*145	木倉 直美 (東京医科歯科大学医学部保健衛生学科検査技術学専攻) 筋サテライト細胞の分化における基底膜蛋白質ラミニンの機能解析
148	小柳 明日香 (東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科生体検査科学専攻分子生命情報解析学) Sox10-Venus マウスを用いた神経堤由来細胞の性状解析

*指導教員の要望により当該発表内容の掲載はありません。